

■ つながり学習と玉中祭大学の部（玉川中学校）

1 【活動の趣旨】

今年度は「体験重視」を掲げ、ここ2年、コロナ禍で思うようにできなかった活動について、コロナ前と同様あるいはそれ以上の取組を進めていく。

〔1年生〕環境、人権、防災に関わる課題について体験的に学び、課題を解決する。

〔2年生〕学級の枠を超えた集団（琵琶湖分野、地域分野、防災分野、学校分野の4分野）で、課題について体験的に学び、課題を解決する。

〔3年生〕自分の興味・関心のもと、自分で課題を立て、課題を解決する。SDGsの17ゴールのうち、1, 2年生での学習経験を生かして、自分でテーマや課題を設定し、調べ学習を行う。

2 【特徴的な活動内容】

玉中祭「大学の部」を新設し、立命館大学BKCキャンパス体験を実施した。生徒が自分の進路について考える機会とするとともに、「夢や目標」をもった生徒の育成を目指して行った。キャンパス体験の内容としてSDGsを扱い、SDGsについての学びを深め、学校や家庭でSDGsに資する行動ができるためのきっかけを作ることができた。

3 【実施にあたっての工夫】

SDGsに興味をもって取り組めるように、大学教授による講義、キャンパス内をめぐるSDGsクイズラリーを体験し、学習した。また、昼食を学食でとった。さらに、学年ごとに大学生による「夢や目標」のスピーチがあり、夢や目標を見つけるきっかけとなった。

4 【事業の成果】

体験活動や人との出会い、調べ学習を通して、主体的に学ぶことができた。

現状や課題だけでなく、自分たちにできること、学校や地域でできることを考え、学級や学年で発表した。全校の「つながり発表会」では地域の方にも来校していただき、発信することができた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

今後は、体験したり、調べたりする中で、分かったことや考えたことを、どのように行動に移していくかが課題である。

また、地域への発信方法を今後工夫する必要がある。



【大学教授による授業】



【BKCでクイズラリー】



【つながり学習発表会】